



秋の風物詩



ある日のことです。いつも大園小学校の環境整備に力を発揮していただいている庁務員の二見さんから、「校長先生、運動場の柿の木に実がたくさんなっているんですけど、先生方は何か使われませんかね。そのままにしていると、落ちてしまうか、鳥さんのえさになるだけなので・・・。」と相談を受けました。

そこで、夏に校内で実を付けたピワを活用して、ピワジャムづくりに取り組んだ実績のある特別支援学級の先生方に

声を掛けてみました。すると、「それでは、つるし柿（干し柿）づくりをやってみます。」とのお返事をいただきました。

早速、放課後担任の先生方は家庭科室にこもり、二見さんが採ってくださった柿を、一つ一つ丁寧に洗い、皮をむき、湯煎して殺菌し、紐を付けて、物干し竿につるしてくださいました。かなり時間がかかった作業でした。

私が子どもの頃には、祖父母の家や田舎の親戚の家に行くと、「つるし柿」の風景はよく見かけたんですけど、最近はあまり見かけませんね。ねっとりとした食感でとても甘くて、味がなくなるまで種をいつまでも口の中に入れていた思い出があります。

秋の風物詩「つるし柿」、今は「干し柿」の方がピンと来るのかな？1階廊下奥で、ゆっくりじっくりおいしく変身するのを待っています。渋柿ですから、まだまだ食べられません。本当は外で天日干しして、大園っ子に変身していく姿を見せてあげたいところですが、外だと鳥さんたちから突かれてしまいますからね。箱入り息子・娘で、甘やかして甘く育てます。



<今日の一句>

風物詩

秋の味覚の

つるし柿

卓也